

「観光」は中国の古典「易経」から来た言葉。

「観光」とは「国の光を観ること」が、もとの意味だとされている。つまり、観光の原点は、「人々の暮らしを見る」ととも、その地域に住む人々が **「自らの光を輝かせて指し示す」** ことでもある。言い換えれば、光り輝く地域をつくること。

「魅力のある人には人が集まる」

魅力がある人⇒「がんばる人・前向きな人・元気な人・成長させてくれる人（刺激がある）・情報がある人など」

義烏市はチャイニーズドリームがある。国内外から人が集まる。（物があつたのではない）

地域・会社・コミュニティ・組織・店舗などにおいても「魅力がある人には人が集まる」

「魅力のある人」→儲けている人→儲けさせてくれる人（ビジネスモデルを作れる人・コンサルティングできる人）

※売れる営業マン⇒人（顧客）が集まる。コンサルティングできる人（儲けさせてくれる人・メリットを与えてくれる人）

人（点）と人（点）との交流から線となり、平面となり、立体化していく。「ビジネスを創ることは観光振興となる。」

義烏人の特徴（魅力）⇒ 正義、勇敢、誠実、勤勉、寛容、開放 温家宝首相「開拓、創新、堅実、苦勞、活力」

義烏市は、安い雑貨により義烏に来る人を儲けさせるビジネスモデル（例／百円ショップ）を創造。ビジネスの相乗作用。

→かって、大阪も。「魅力のある人」→儲けさせてくれる商売人の街であった。（死語になる「儲けてまっか。ぼちぼちでんな。」）

観光資源に乏しい大阪の魅力は昔からビジネス、産業、商売、娯楽、グルメそしてエンターテイメントの街であった。

観光（商売）の活性化→**交流のリピーター（ファン）**となる。～航空会社が中国線のターゲットはビジネスの顧客。

ターゲット（視野）の重要性（世界中に）（義烏の人は世界215ヶ国を見ている。つきあっている）⇒**日本だけ見ているから不景気。**

⇒日本（三宮の人は神戸を見て、大阪の人は関西を見て、東京の人は日本を見ている。どの地からも視野を広げ世界を見ること。